



狛江市立狛江第五小学校だより 《学校の教育目標》 明るい子 考える子 強い子

# がくとう

令和3年6月30日発行  
校長 伊藤 栄司  
7月号 No. 4

## 狛江市ぶらり歴史探索① ～覚東～

校長 伊藤 栄司

多摩川の中流域に位置し、昔から水と緑に恵まれた環境にある狛江市には歴史的価値の高い遺跡が数多く残されています。狛江の良さを子供たちに教える前に、まずは自分が調べ実際に歩き肌で感じたいと考えました。そこで、不定期ではありますが「狛江市ぶらり歴史探索」と題し歴史や文化を学校だよりで紹介していきます。第1回目は「覚東」です。覚える東とはどんな意味があるのか疑問に思ったところからのスタートです。

### 覚東と小足立

狛江市内北部に位置する覚東は、地区全体が東西の二地域に分かれていました。特徴的なのが、上覚東と呼ばれていた地域です。下覚東から完全に分断され、飛び地になっていました。分断された間には小足立地区が入り、地区の境界はかなり複雑になっていたようです。入り組んだ小足立・覚東の両地区を合わせてまとめ、小覚(こがく)と呼ぶことがあり今でも交番の名前として残っています。

### 京都に近い上覚東

現在の住所でいうと西野川1丁目のあたりが上覚東、東野川1丁目あたりが下覚東と定められていました。より京都に近い西側が上手とされ、少しでも遠くなる東側が下手とされていました。また、本校と千住院のあるあたりは、中間にあたることから中覚東と呼ばれていました。

覚東地区は武蔵野台地に当たるため畑を作り農業をする人が多かったようです。また、旧野川(現在の遊歩道)付近は湿地帯もありコウチバショ(耕地場所)と呼ばれる水田地帯もありました。

### 覚東の由来

『新編武蔵国風土記稿』によると「古ハ学堂村トモ書セリ」とあります。覚東は古くは「学堂」と書いたとあり、近世資料にも「学堂」あるいは「学東」という表記が見られます。また、昭和十年に刊行された「狛江村誌」には、「この地は武蔵國國學所のありし處にして學堂はその遺唱にあらざるか」と書かれています。つまり、その昔武蔵国の国学所と呼ばれる学校があったので「学堂」となったのではないかと予想しています。一方、「何時ごろより覚東村(覚は旧字体)となりしや不詳なり」とあるので、学堂がいつ覚東になったかは分からないと書かれています。

### 学問の地「覚東」

残念ながら学堂がなぜ、覚東になったのかはわかりませんでした。狛江第五小学校が学問の地「覚東」にあることに大きな意味を感じました。町の名前になるほどなので、昔から学問の地として代々伝えられてきたに違いありません。「学問の地でしっかり子供たちを育ててくれよ」と古の人々から応援してもらっているような気分になったぶらり歴史探索でした。※次回は小足立についてご紹介します。

参考文献:「覚東の民族」狛江市市史編集専門委員会

7月の予定		
6日(火) 安全指導日	15日(木) 避難訓練	21日(水) 夏季休業開始 個人面談開始
7日(水) 小中連携の日	19日(月) 5時間授業	個人面談期間 21日(水)・26日(月)・27日(火) 28日(水)・29日(木)・30日(金)
9日(金) 聖火リレー浴道応援 (6)	20日(火) D時程 終業式	
10日(土) 土曜授業		26日(月) 夏季水泳指導開始
13日(火) 自転車シミュレーター(2)		31日(土) オリンピック パラリンピック観戦 (6)
8月31日(火) 夏季休業終了 9月1日(水) 始業式		

## 7月の生活目標:後かたづけをしっかりとしよう

### 【身の回りの整理整頓について】

学校生活では机の中やロッカー、廊下のフックなど整理整頓を心がける必要があります。特に、机の回りが整理されているとすぐに学習の準備ができ、授業に集中しやすくなります。また、整った教室はけがの防止にもつながります。教室の中では、多くの子供が生活していますので、自分の身の回りはいつもきれいに保てるように指導しています。

### 【学習用具の点検・補充について】

夏休みに入る前に、学習の記録や学習用具などを計画的に持ち帰らせます。学習の記録は子供の頑張りが読み取れますので、保護者の方も是非、ご一読ください。また、お道具箱や手提げ、絵具等の道具類は中身をご確認いただき、補充や記名等お願いします。  
(生活指導委員会 林 佑香)

## 1学期の読書月間（5月24日～6月18日）

1学期の読書月間は「『本の森』からお気に入りの一冊を見つけよう」のテーマで行いました。1年間かけて『本の森』を全部読むことをめざす、よいスタートダッシュになりました。

図書委員会では、『本の森』のポスターを作り、校内に掲示する活動をしました。また、今回の読書月間のお楽しみ企画として「本の福袋」を貸し出しました。「本の福袋」は教職員のおすすめの本を紙袋に入れ、棚に並べておきます。紙袋にはおすすめの本の理由が書かれているので、児童は「誰がどんな理由ですすめているのか」だけを見て借りていきます。袋を開けるまでどんな本が入っているのかわからないので、みんなドキドキしながら借りていました。

(図書担当 春日 弓子)

## 4年生校外学習

6月7日、8日、10日に一クラスずつ狛江市のビン・缶リサイクルセンターの見学に行きました。ビンや缶、ペットボトルを回収し、手作業で分別したり、ペットボトルのふたをとっていたりする姿を見て、自分たちもしっかりと家のごみを分別しないといけないと感じていました。

<1組>○10人くらいの人しか働いていないのに、とてもたくさんのごみが一日に来て、大変だと思った。

私たちが分別はちゃんとしたい。(A.K)

○狛江市だけでもとてもたくさんビンや缶、ペットボトルが捨てられていて、驚きました。(K.K)

○ビン・缶リサイクルセンターを見学してから、ペットボトルのラベルとキャップを自分で外すようになりました。(T.Y)

<2組>○リサイクルセンターにあったごみが、回収されず道に広がっていたら、歩く道がなくなって臭くなると思いました。(S.T)

○自分でちゃんと分けなければ、分ける人が大変だから、ちゃんと分けなければいけないんだと思いました。(Y.H)

○リサイクルでエコにそしてクリーンな環境で、過ごせるように努力をしているのがすごいなと思いました。工夫がわかって楽しかったです。(F.K)

<3組>○今までゴミの分別はあまりしたことがなかったけれど、ペットボトルはキャップやラベルをちゃんとはずさないといけないと思い、さっそくお母さんに教えました。(Y.H)

○作業員さんたちは、とても環境にも気を付けて仕事しているということがわかりました。私たちにできることはやっておいた方が良く思いました。(I.K)

○僕たちが捨てているゴミは、業者さんにわたり、処理されているということを知り、僕たちにできることはないか考えてみたいと思いました。(A.J)